

一日教育委員会（教育懇談会）意見交換記録

日時 平成28年8月10日（水） 13:30～15:30
場所 市川大門町民会館
出席者 81名
（内訳）PTA関係者 56名
市町村教育委員会関係者 23名
一般 2名

1 居住地校交流の推進について

- ・特別支援教育に関連していると思うが、現在学校から居住地校交流というものがあると説明を受けている。任意での参加となるが、南部町居住という地域柄、高校卒業後地域と関わる生徒の交流がほとんどなくなっていくことから、同級生との付き合いは大切にしたいと、年に2～3度参加している。県の教育委員会として、この居住地校交流を積極的に推進していくのか。それとも、このまま参加したい人は参加するという姿勢で取り組んでいくのか確認したい。
- ・これに参加するにあたって、親が付き添うが、担任の先生が付き添う場合とそうでない場合がある。保護者からすると心身的に大変で、担任の先生が付き添ってくれると負担が分散される。積極的に居住地校交流を推進していくのであれば、担任の先生が付き添えるシステムづくりをお願いしたい。

新しい学校づくり推進室長

- ・障害のある子どもたちが自分の住んでいる地元の人たちと交流することは非常に大切であると考えているので、県としても積極的に推進をしているところだが、取組が地域の皆さんに浸透していないということであれば、特別支援学校に取組を進めるよう伝えていく。また、担任の参加については、付き添えない事情がある場合もあるかと思うが、基本的に参加することになっており、その点も特別支援学校に指導していきたい。

（保護者）

- ・地域の人々の理解不足ということではなく、参加者が少ないということ。なぜ、参加しないのかということを考えてもらい、参加しやすい体制をつくってもらいたい。担任が付き添えば負担は軽減されるが、学校に残った不参加の生徒の面倒が見られなくなる。学校も職員数が決まっていることから、居住地校交流の際には、補充の先生が配置されるなど、担任の先生が居住地交流校に付き添えるような検討をお願いしたい。

新しい学校づくり推進室長

- ・参加者が少ないという点については、今後検討していきたい。ただいまの意見を踏まえ、改善を図っていきたい。

守屋教育長

- ・せっかく居住地校交流をやる以上は効果的に進めるべきなので、特別支援学校等の状況を聞きながら、参加する方に喜ばれるような仕組みを検討していきたい。

2 特別支援学校のスクールバスの運行について

- ・私の知り合いで支援学校の分校に通学されている方の保護者から、スクールバスが朝、晩と出ているが、帰りは南部町まで来るが、朝は身延町までしか来ないと聞いた。何で、朝は身延町までなのかと率直な疑問を感じたが、何か理由があるのか。

新しい学校づくり推進室長

- ・朝7時15分にふじかわ分校を出発し、身延町のゆばの里で子ども達を乗せ、9時に学校に着くという運行になっている。夕方は南部町まで送迎している。身延から南部まで約15分、往復で30分となるので、出発時間を朝6時45分に早めれば、南部町までの迎えも不可能ではないので、運転手の勤務時間等を含めて検討したい。

3 確かな学力向上対策について

- ・小学校の確かな学力の向上対策について、放課後や土曜日等を活用した学習支援という事業があるが、実際に放課後はあるとしても土曜日の学習支援というのをやっているのか実施状況について聞きたい。
- ・自分たちの子どもの頃は土曜日も半日授業があったが、今はなくなってしまった。土曜日の半日授業により、授業数が消化できていたんじゃないかと思う。今は、その時間数を無理矢理詰め込んでいるような授業になっているのではと気になっている。土曜日の学校をやってくれというのは、難しいかもしれないが、何かそういった支援を行っているところがあるのか。今後徐々に進めていくのか聞きたい。
- ・それから、宿題の量が多いクラスがあったり、少ないクラスがあったりするが、先生が良い悪いということではないと思うが、差がでるということは先生側に何か問題があるのか。また、教育委員会では、どのように先生達に指導しているのか。

守屋教育長

- ・私の方から総括的な話をさせていただく。なぜ、放課後や土曜日に学習支援を行っているのかというと、一番の原因は学力の低下をどうカバーしていくのかということ。全国学力学習状況調査という全国一斉の調査があり、都道府県別の平均点が公表されている。この平均点が10年間くらい全国平均を下回っている。それだけが全てではないにしても、10年間下回っているとすれば、何らかの対応をしなければならない。学校の授業の質を改善したり、先生の技術力を向上させたりなど。それからもう一つ言われているのが、全国学力学習状況調査のアンケート結果から山梨県は全国に比べると学校以外での勉強時間が少ない。そこで、土曜日や放課後を使っただけの学習支援を支援している。詰め込みすぎではないという意見もあるが、全国的にも同様の事業は行っており、あくまで強制ではなく選択制のもと学習環境をつくるようにしている。
- ・もう一つ宿題の話が出たが、クラスによって習熟度が異なったりするので、先生方がどういう問題を作ればと工夫して行っているものと思う。ただ、県では、御坂にある総合教育センターでの先生への研修や、教科ごとに研修を行うなど技量がある程度の水準以上になるよう取組を行っている。

義務教育課長

- ・放課後とか土曜日の学習は、各市町村、学校の実態に応じてやり方はバラバラかと思う。ここに記載してある事業は、希望のある市町村に対し補助金を交付し、取組の支援を行うものである。全ての市町村が実施しているわけではなく、市町村独自で事業を行っているところもある。県で把握している範囲では、土日と言うよりは夏休みなどの長期休暇での実施が多いようである。

- ・次に土曜日の学校について、制度としては市町村教育委員会の判断で土曜日に授業をすることは可能となっているが、山梨県での実施はない。週5日制が導入され10年以上が経過しており、制度が定着してきている中では土曜日に授業を実施するのはなかなか難しいのではないかと思う。
- ・授業が詰め込みすぎではという話については、現在小学校の高学年では週28時間のコマで授業を行っている。一日6時間で5日やると30時間になるが、2日間だけは6校時帯が空いている。週5日制になる前に比べると放課後の時間が圧迫されている。そういう意味では、授業が遅くまであり、6校時の時間が多くなるという現状がある。
- ・宿題については、教育長から話があったが、各学級の実態や指導に応じて各担任によっては違いが出てくることもあるかと思う。

白川教育委員

- ・宿題の話が出たので、思うところをお話ししたい。私の子どもも宿題をやっていてたまに教えてくれと頼まれるが、親が答えられないような問題が多く、苦勞している。また、小学校の頃は漢字の書き取りがあるが、うちの子は一つ一つの漢字を覚えるように書くわけではなく、テレビを見ながらただノートに埋めればよいというようになっている。つまり宿題は、子どもがどう取り組むかというのが、家庭教育の大事な部分じゃないかと思う。さらに、宿題について先生に要望していることがあるが、せめて男親が子どもに教えられるような問題を出してもらえないかと。例えば今日の朝刊の何が大変な事柄だったのか。多分ここにいるお父さんたち、ここは得意だと思う。選挙のことだとか、地域の問題だとか。そういう家庭の中のコミュニケーションから、その子に気づきがあって、その子が向上していくという一つの道もあるんじゃないかと思っている。
- 一保護者の立場として発言させていただいた。

和田教育委員

- ・家庭学習について、たぶんそれぞれの学校で家庭学習の手引きというものが渡されていると思う。子どもたちにとってどんな学習を立てるのがいいのか、どのぐらいの学習をするのがいいのか、多分時間なんか書かれている手引きもあるかと思うので、ご覧いただきながら学校と家庭で一緒になって考えていただけたらいいのかなと思う。

4 強歩大会等の行事の自粛について

- ・私は増穂出身で、増穂中学時代には強歩大会というマラソン大会があった。山の中を20キロくらい走るようなマラソンだったが、野球部に所属していた私はノルマを課せられ必死に練習した思い出がある。ほかの部活でも同様にノルマがあったようだ。今思うと子どもが伸びるのは、そういう競い合うことや協力し合うこと、そして達成したら褒めてやるのが子どもが伸びる要因だと親になって思う。強歩大会にはその要素が入っている。しかし、今は別の学校で心臓麻痺で亡くなられた子どもがいたということで廃止になったと聞いた。ニュースで組み体操が危険だからと組み体操が禁止となったり、公園の遊具が老朽化して危ないから廃止となったりと、全て廃止となっている。確かに何かあってからじゃ遅いが、いろんなことに対して何かあってからじゃ遅いということで廃止になっては、いろいろな可能性を削ってしまうのではと感じている。

野田教育委員

- ・私も教育委員となり感じたことは、最近の教育は何か金太郎飴を作るような教育しかしていない。これもだめ、あれもだめと禁止してしまうから、何も面白みのない子どもを

量産化しているような気がする。強歩大会も仮に保護者がついて一緒に走っていても、何かあるときには何かある。最近、学校の先生が負担になっていることにクラブ活動がある。クラブ活動は先生が付いていないとダメ。確かにそういう意見もあるが、先生が付いていても事故は起こってしまう。そうした中で、子どもは危険察知能力とかが育まれる。高校でも強歩大会で死亡事故があったが、そうした時に、全てやめてしまうと何かをチャレンジする、何かを改革するということが一つもなくなってしまうと思う。ぜひその辺は過敏にならずに、保護者の皆さんから逆にこれこそ続けて欲しいと、これこそやって欲しいという声を上げていただきたいと思う。そうしなければどんどんどんどん縮小均衡になるばかりで、金太郎飴の生産の学校現場になってしまうと思う。

白川教育委員

- ・よくぞ言ってくれたというようなご意見。子どもというのは、これがあったからだめなんだということではなく、そこで学ぶものも確かにあるんじゃないかと。ただし、そうってしまったのは何故かという我々がそうしてしまったからだと思う。何かあったら先生が悪いとか、指導しないからだめなんだと言えば言うほど後ろ向きになっていってしまう。ここにいる方々が、必要なものは必要と思っているのなら、逆に続けていこうと言っていくことが大事。ぜひ今のような意見を言い続けていただきたいと思う。

武者教育委員

- ・私は婦人科、内科をやっているが、私の地域でも強歩大会を続けているところがある。一応、学校医が聴診したり、問診したり、心臓の病気がある方には主治医から意見を添付してもらったりと準備して実施している。それでも、突然死なんてこともあり得る。ただ、それは保護者の方や学校も承知で、それでも参加させたい、あるいはいやだと言うことであれば強制はしないということで実施している。私も、ぜひ続けてもらいたいといち親としても、医者としても思っている。
- ・また、遊ぶ場所についても、今の子どもたちは学童という部屋の中やグラウンドの一部だけしかなく、空き地があっても立ち入り禁止になっていて、子どもたちが体力をつける場所がない。スポーツ少年団も親の送迎が負担となってやらせられない現状もある。これからますます女性が働くようになると、毎週土日に朝から晩まで子どものスポーツにつきあえない親は増えてくる。何とか子どもたちに、安全で好きなように遊べる場所をつくることのできたらと思っている。さらに、遠足も昔は山登りとか過酷なものもあったが、今は、はとバスツアーのようなバスで現地へ行くようなものが多く、このままでは学力だけではなく体力も決して平均的に優れているわけではないので、考えていく必要がある。

和田教育委員

- ・私も現職の頃は小学校だったが、マラソン大会をしていた。その頃は交通量も少なかったが、年々交通量が多くなり、安全面の配慮というようなことが言われるようになった。その当時は、保護者の方や地域の方が協力をしてくれたが、共働きの増加や地域の協力も少なくなっていく中で、安全に子どもたちが走るための条件が整わなくなり、やめていったというような経緯もあるが、まだ、私の住んでいる地域の中学ではマラソン大会を実施している。事前に保護者と学校側で十分打合せを行い、安全にマラソンできるためには、例えばどこに立ったらいいか、何人ぐらい人が必要なのかというふうなことも十分協議しやっているようである。地域の方々も大変協力をしてくれて、その日は家庭にいまする方は道路の所に出てくださいということも聞いている。遠足の話も出たが、昔は歩く遠足とバスの遠足があった。今の子どもたちは歩くのはく

たびれるからということで、バス遠足がいいと言う。歩きの遠足をしたら5分が10分経ったら、まだ着かないのと言う子どもたちが大勢いたのに驚いたが、子どもは、小さい時は思い切り体を使って遊ぶということが必要なと思う。

守屋教育長

- ・甲府一校でも死亡事故があって、一度中止、休止になって、今復活している。私が校長だったらどうするかと考えていたが、校長からすると一回死亡事故があると、先ほど委員から話があったが、健康診断をしないといけないとか予見可能性があるのに亡くなられたとなると管理責任を問われる。甲府一校でも経路の途中にOBの皆さんやPTAの皆さんがしっかりと監視体制を取っているため、実施が可能だろうと思うが、PTAの協力があることが前提で、PTAの協力が不明な状況ではなかなかやるとは言いづらいかもかもしれないと、管理者の立場だったら思う。だから、PTAや同窓会の皆さんが伝統を守りたい、つくりたいという思いがあれば、学校側にPTAも一緒になってやるからという話をしないと、実質的には前に進みづらいのではないかと感じる。
やること自体は多分誰も反対する方はいないが、何か起こった時の責任を全て学校が取られるというイメージがあると、私が校長だとちょっと二の足を踏むなという思いがある。PTAの皆さんが俺たちも一緒になってやるからという体制がとれると、学校側も前に進みやすいのではと思う。

スポーツ健康課長

- ・学校児童生徒の安全管理を所管する課としてお答えする。体育的な行事、今言う強歩大会だとか運動会、その具体的な行事の実施の判断は各学校長の判断ということになる。県の教員委員会では、やるのであれば体育の先生だけ、あるいは校長先生だけがやりたいと思うのではなく、学校全体の中で、なぜこの行事をやるんだ、その行事の趣旨をよく理解させる。何のためにやるんだということを学校の中全体、児童生徒も含めて理解をさせる。その上で、事故が絶対起こらないような安全管理の体制を整えてくださいということを各学校を指導しているところ。

5 スポーツ少年団の活動について

- ・子どもがスポーツ少年団で野球をしている。早川町にスポーツ少年団で野球はなく、身延町で野球をしていたが、身延町でも人が少なくなり、今富士川町、身延町、早川町の子が一緒のチームでやっている。さっき教育委員の方がスポーツ少年団で送り迎えが大変だと話があったが、確かに大変。すごく大変で、お父さん、お母さんたちが仕事の休みを取ったりして何とか送り迎えをしている状況。同様に、早川町から身延のチームでサッカーをしている子もいるが、身延の中学校では、チームがなくなってしまう。富士川町では中学校でもサッカーができるので、高校サッカーの夢を持って子どもたちができる。その場合でもやっぱり親御さんが送迎をしており、苦労している。
この峡南地域で野球部がある学校が減っており、いろんな中学校を集めて何とか1チームにして活動している。中学校の部活で野球を続けることが難しいということで、身延町に硬式の野球チームがあるが、南部町から六郷とか富士川から集まってきている状況。今はお母さん、お父さんたちが協力して乗り合わせで送り迎えをしているが、スポーツをしたいという子が、保護者が迎えに行けないから無理だよと言われてしまうことはすごくかわいそうな気がしている。
この山間に住んでいる子たちも平等にスポーツができるチャンスがもらえたらと思うが、大変なことはもう重々承知しているが、山梨県としてこういうことに対してどういう考えなのか聞きたい。

守屋教育長

- ・この問題はクラブ活動だけの問題だけではなく、学校の統合が進んでいる中で通学の問題など、市町村間の連携をどう取っていくかという問題でもある。県はどのような立場にあるかということ、市町村を支援する役割を持っている。例えば教育長会議という市町村の教育長の皆さんが集まる会議があったりするので、こういう要望があってなど、話題提供や課題を出すというやり方は取れる。ただし、市町村自体に自分の問題として捉えてもらう必要があり、経費の問題や人的な負担の問題などがあり、中々すぐにお約束はできない問題。まずは、市町村に話題提供し、その中で県への要望に対しなにができるかを考えていくことになるかと思う。

飯室教育委員

- ・野球に関しましては今非常に野球人口が減ってきている。今の山梨県の高野連の理事長と話をしたが、そこを心配している。子どもたちを集めて何かやっというところと仕掛けをいろいろと考えているようだ。いろいろ問題点はあるが、あちこちで点を作りながら、それを段々実現していけば、それが線になっていづれ面になっていく。地域でのよい事例はどんどん出してもらって、それをほかの教育委員会にも広めていき、一つ一つ着実に実行していけば前に進んでいくと思うので、よろしく願いしたい。

スポーツ健康課長

- ・スポーツ少年団等々の送り迎えで、ご父兄が苦労しているという話だが、それを肩代わりする事業が県や町にあるか、あるいは考えがあるかということ、今の段階ではそうしたものが無いというのが現状。
今子どもが減ってきているという中でスポーツ少年団も非常に数も減ってきており、スポーツ少年団の活動も段々低迷してきているということがあって、統合という動きもあるかと思われる。ただ、スポーツ少年団は任意の活動であり、必ずしも全県的に送り迎えができないということでもない。まずは、その地域の中で何がどう問題があってというところを確認していただき、それは地域の中で解決できるのかできないのか、そこを検討していただくことがまず必要。そこに県はどう絡んでいくんだというような話になるかと思う。

(保護者)

- ・今スポーツ少年団に加入できているのは、送迎が何とか出来ている方ということ。子どもがやりたいのにできない方、土日が休みじゃない親、そういう人たちが、声を上げることはなかなかできない。送り迎えができない時点で諦めてしまっている方が大勢いるということ。
そこのところを何とかできないかなと思った。

武者教育委員

- ・お答えする立場だが、私の子どももやりたいスポーツがあったが、仕事の中々抜けられなかったので我慢させてしまったというちょっと苦い思い出がある。同じスポーツ少年団のお母さんたちは「じゃあ私が送っていきますよ」と言ってくれるが、なかなか甘えられない。
今、オリンピックをやっていたり、東京オリンピックも控えている。山梨も来年インターハイがあり、県でも運動を推進するということであれば、アンケートみたいなものを取って、子どもたちがやりたいけどやっていない理由などを聞いてもいいかもしれない。

どうしても声を上げられなくて、結局子どもに我慢させてしまうというふうな結果になって、必然的に体力が落ちてしまうことがないよう、県でも考えていけたらなと思っています。

スポーツ健康課長

- ・ 体育とすることに関しては、学校教育の中で体育の授業がある。そこから先にそれぞれの個人の事情に応じてもっと競技をやりたいとスポーツ少年団やスポーツチームに入ることを選ぶことがあるが、教育とすると体育の授業の中で体力づくりなどに取り組むことが原則。その先、それぞれの選択により好きな競技に取り組み、将来オリンピックや山梨代表になっていくかもしれないが、その子に対してどの程度県として経済的な支援等をするかについては、広く県民の理解を受けていく必要があり、すぐにどうこうということは答えられない。